



【住 所】島根県出雲市姫原4丁目1番地1 【病院事業管理者】中川 正久 先生

【病 床 数】687床

【スタッフ】医師(認定指導医)5名、臨床検査技師5名(内視鏡技師4名)、看護師3名、受付1名

【内視鏡検査総数】(平成19年度) 8,668件(上部消化管 5,856件、下部消化管 2,570件、
経鼻内視鏡 40件、ERCP 158件、FNA 12件、他)

【治療内視鏡総数】419件(EST 52件、内視鏡的止血術 232件、EIS 3件、EVL 33件、PEG 87件、他)

【内視鏡関連機器】内視鏡光源 6台(NBI 5台)、上部スコープ 12本、経鼻スコープ 3本、
上部処置用 3本、下部スコープ 6本、胆膵用 3本、気管支スコープ 7本、超音波スコープ 5本、
アルゴンプラズマ凝固装置 1台、高周波装置 3台

患者利益を最優先した診療体制で 安全で確実な内視鏡診療を地域に提供

高度先進機器の効果的な導入と 迅速かつ確実な検査・治療体制が 患者利益を最大限に拡大

島根県の基幹病院として設立された島根県立中央病院は、『医療の主人公は患者さんである』を基本理念に、県民のニーズに応える医療サービスを提供しています。平成11年には全国で初となる電子カルテシステムを核とした病院統合情報システムを構築し、医療の質と患者サービスの向上ならびに経営の効率化を実践しています。また、救命救急医療、高度特殊医療の充実化を図るとともに、敷地内に庭園を配置して患者様に癒しの空間を提供するなど、利便性と快適性を確保した環境整備にも力を入れています。

内視鏡診療部でも、患者様の利益を最優先し、安全性を最大限に確保した上で、提供しうる最高の医療を追求するという指針の下、設備の充実と人材育成、安全管理の強化を実践しています。同部では治療内視鏡の施行件数が年々増加しており、特に下部内視鏡検査・治療の件数が多いのが特徴です。これは検査から診断・治療までを可能な限り同日に実施し、迅速で的確な診療を行っていることが地域で評判となり、更なる患者増に繋がっていることに起因します。さらに、NBIや拡大内視鏡、ハイビジョン内視鏡などの先進機器をいち早く導入し、病変の早期発見と診断能の向上を実現しています。同院の医療局次長であり消化器科の部長を務められる今岡友紀先生は、「検査時の診断の精度を上げることで、ポリプ切除等の侵襲的処置を最小限に抑えられるようになりました。今年6月からは最新型の放射線治療装置『トリロジー』



医療局次長・消化器科部長
今岡 友紀 先生

(バリアン社製)が稼働しましたが、これにより胆管ステントや食道ステントなどの適応症例に対する治療の選択肢が拡大すると期待しています」と、患者様にとって有益な設備投資が効果的に実施されていることを説明されました。

医師・スタッフが連携したチーム医療で 24時間体制の救急医療を地域に提供

同院には県内で唯一の救命救急センターが併設されていることから、内視鏡診療部は緊急内視鏡にも積極的に取り組んでいます。特に緊急時には熟練したスタッフの協力は欠かせないため、内視鏡技師も24時間体制で待機し医師のサポートを行っています。内視鏡科部長の高下成明先生は、「安全で確実な内視鏡検査や治療を実施するため、医師・臨床検査技師・看護師それぞれの役割を明確化し、チーム医療体制で診療に臨んでいます。各検査室に一人ずつ技師を配置しているため、看護師は患者管理に専念し、また医師は安心して術野に意識を集中することができます」と説明されました。内視鏡診療部は救命救急センターの至近距離に配置されており、緊急内視鏡が必要な患者様を速やかに搬送して処置を施行でき、また検査や治療の際に患者状態が急変した場合にも、救命措置を極めて迅速に行えるように安全性に配慮して院内のレイアウトが決められたそうです。検査室も各部屋の仕切りを固定せず、年々変化する内視鏡治療に対応できるよう、スペース変更可能な構造になっています。換気を十分に行える空調システムを取り入れるなど、スタッフの安全性にも配慮されていました。



内視鏡科部長
高下 成明 先生

内視鏡技師が主体的にイニシアチブをとり 円滑な内視鏡検査・治療をサポート

内視鏡診療部では13年前から臨床検査技師が内視鏡室に従事し、現在では5人の検査技師によって検査・処置の介助、機器・処置具の管理をされています。また内視鏡技師がイニシアチブをとって感染対策を遂行しており、その一環として処置具のディスポーザブル化にも早くから取り組んでこられました。内視鏡技師の金森啓子さんは「年々進歩する内視鏡治療に対応するため、日頃から新しい手技や処置具の理解を深めるように心がけています。また、感染対策では自分や家族が安心して検査や治療を受けられる環境かどうかということを常に念頭においています」と日々の心構えを話されました。



内視鏡技師
金森啓子さん



検査技術科長
角森正信さん

内視鏡技師で同院検査技術科長の角森正信さんは、「内視鏡技師に求められる役割は、正しく機能する機器や処置具の準備、検査や治療の適切な介助、手技の目的に合致した処置具の提供、患者容態の変化に敏感であることなど多岐にわたります。そのため、スタッフも検査や治療の手技やリスクについては医師と同じレベルで認識する必要があり、常に患者様への目配り・気配りを欠かさないことが大切です」と話されました。角森さんは日本消化器内視鏡技師会の理事を務められ、また同会中国支部の会長職も兼務されるなど、全国の内視鏡技師の意識向上とスキルアップのため日々尽力されています。



内視鏡診療部のみなさん